



西尾正道医師 (北海道がんセンター名誉院長) (関東子ども健康調査支援基金顧問)

「これからの健康被害」は

- ① 長寿命放射性元素体内取り込み症候群
- ② 複合汚染列島における健康被害と医療の崩壊



- ③ 食の安全
早期発見、
適切治療



【業務連絡】このカタログ8月2回のお届けは、8/7～12の通常です。
今週もうひとつ配布している8月3回のカタログ商品のお届けは8/17(水)
～19(金)の3日間です。

【7～8月の予定】

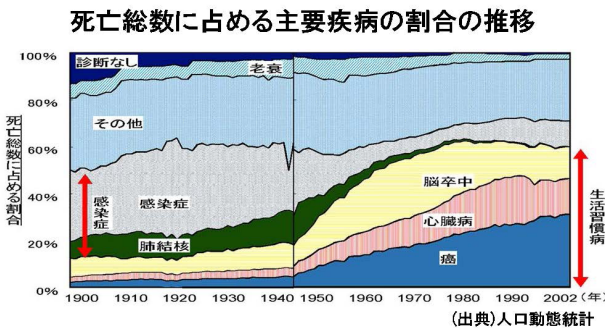
●生協基幹運営／地域活動・催し●	●提携・協同企画●
<ul style="list-style-type: none"> ・7/2 総代活動打合せ会 (バターづくりで仲間づくり) ・7/16 石焼き釜ピザ焼き体験交流 (つくば組合員宅) ・7/17 つくばまめいち (つくば大角豆) 	<ul style="list-style-type: none"> ・7/2-3 甲状腺検診 三郷、白井 (関東子ども基金) ・7/9-10 甲状腺検診 真岡・益子 (関東子ども基金) ・7/15 西尾正道講演会「これからの健康被害」 ・7/23 「東海第2原発訴訟でわかってきたこと」 (脱原発自治体議員連盟・原発いらぬ牛久の会)
<p>◎7/26 (火) 10:30～12:30 常総生協本部 かーちゃんの力 渡邊とみ子さんを生協にお迎えして 「渡邊さんお話し会と郷土料理で交流会」</p> <p>○7/27 (水) 定例理事会 (第3回)</p> <p>【有機野菜セット生産者交流会】 (いずれも10時～14時)</p> <ul style="list-style-type: none"> 7/28 (木) 微生物農法の会長島さん 8/2 (火) 清水農園 8/11 (木) 宇治田農場 8/22 (月) 土れ味農園 天池さん 8/27 (土) くわはら農園 	<p>◎7/25 (月) 13:30～15:30 常総市保健センター ふくしま飯館村といばらき常総市をつなぐ かーちゃんの力 渡邊とみ子さんお話し会 「福島の間 被災地だから見えてくるもの」</p>

7/15 西尾正道医師による講演「これからの健康被害」(1)

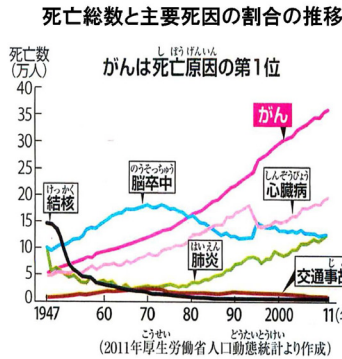


第Ⅰ部は「放射線の健康被害」、第Ⅱ部は「TPP がもたらす医療崩壊と健康問題」でした。4時間に及ぶ講演で、かつ内容が濃かったことから、2回にわけてエッセンスを紹介してゆきます。時間が押して、第Ⅱ部が圧縮されてしまったので、こちらから紹介してゆくこととします。

[1] 「がん」が死因の一位に しかも若年化・・・寿命が延びただけだけでは説明できない



がんの多発は戦後の生活環境・食生活が深く関与
放射線被曝、農薬などの化学物質、遺伝子組換え食品など
⇒近い将来は ①医療費問題、②認知症者・要介護者の医療問題



2010年のがんが世界の死亡原因の1位となる
日本の課題「認知症を伴う高齢者のがん治療」

年代別死因順位

年齢	1位	2位	3位
20~24	自殺	不慮の事故	悪性新生物
25~29	自殺	悪性新生物	不慮の事故
30~34	自殺	悪性新生物	不慮の事故
35~39	自殺	悪性新生物	不慮の事故
40~44	自殺	悪性新生物	心疾患
45~49	自殺	悪性新生物	心疾患
50~54	自殺	悪性新生物	心疾患
55~59	自殺	悪性新生物	心疾患
60~64	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
65~69	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
70~74	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
75~79	悪性新生物	心疾患	肺炎
80~84	悪性新生物	心疾患	肺炎
85~89	悪性新生物	心疾患	肺炎
90~94	悪性新生物	心疾患	肺炎
95~99	悪性新生物	心疾患	肺炎

がん罹患者が若年化

(左) 戦後一貫してがんが増加。(中) がんは死亡原因の一位に、(右) がん罹患者が若年化

[2] 「がんの若年化」・・・これは、食生活・生活環境が深く関与している 日米ともにホルモンに関連したがんが5倍に！

がん 今年新たに98万人

2015年のがん予測 (部位と人数)

	男性	女性
罹患数		
1	前立腺 9万8400	乳房 8万9400
2	胃 9万800	大腸 5万7900
3	肺 9万700	肺 4万2800
4	大腸 7万7900	胃 4万2200
5	肝臓 3万700	子宮 3万
死亡数		
1	肺 5万5300	大腸 2万3400
2	胃 3万2400	肺 2万1900
3	大腸 2万7200	胃 1万7000
4	肝臓 1万8900	膵臓 1万6200
5	膵臓(すいぞう) 1万6600	乳房 1万3800

※国立がん研究センターによる

この40年間で、ホルモンに関係したがんが米国も日本も共に5倍に増加している。男性では前立腺がん、女性では乳がん、子宮体がん、卵巣癌が5倍になっている。

日本では40年間でアメリカ産の牛肉の消費量が5倍に。牛肉の消費量のカーブと、ホルモンに関連したがんの罹患率のカーブが見事に重なる。米国では生産性を1割高めるために、女性ホルモン入りのエサを与えて飼育した牛肉を輸出している。

(右表) 国立がん研究センターの2015年のがん罹患者数予測では、男性では前立腺がんが胃がんを抜いてトップに。女性はダントツに乳がんがトップになると報告されている。

「私が医者になった頃、子宮がんといっても、子宮頸がんが9割、子宮体がんが1割だった。最近では子宮頸がんが4割で、子宮体がんが6割になっている」

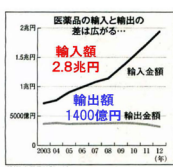
[3] 医療費は40兆円に迫る・・・これを狙うアメリカ企業 TPPへ

医療費 40兆円に迫る



米国が日本の医療を狙っている

- 1985年 MOSS(市場志向型分野別協議) ⇒医療分野の市場開放を要求
- 2001年 「年次改革要望書」 ⇒医療に市場原理の導入を要求
- 2011年 米通商代表部 ⇒医薬品の関税撤廃や貿易障壁の低減を目標とする TPPへ
- ①日本の薬価制度では国が医薬品の値段を決める(医療機器も含む) 実勢価格(納入価格)を参考に公定価格を決定⇒「新薬創生加算」追加 ⇒薬価は製薬会社が決定することとなる(切り札はISD条項)
- ②民間保険会社の参入強化 保険外併用療養費制度(実質的な混合診療の解禁・拡大) (2012年11月のTPP推進の日米財界人会議の米国議長がアフラック日本の代表)



米国の医療費が高いことは周知の事実だが、米国家庭の破産の62%は医療費が原因とされる (Time 紙)。日本の医薬品輸入額は2.8兆円。

米国政治は企業と一体。(TPP 締結に向けたロビー費用)

製薬会社・医療業界 5,300 億円
防衛・ミサイル業界 1,500 億円
精油・ガス関連業界 100 億円

[4] TPPとは・・・昔は戦争、今は企業（TPP） 米国企業が日本人を病気にさせ、医療を儲けの対象として狙っている

生命を脅かすTPPの2つの大きな問題 【医療問題と食物問題】

- ★ 高濃度女性ホルモンが残留する牛肉
女性ホルモン入り餌で生産性が1割高
⇒米国内の消費量と発がんが相関し5倍増
(前立腺癌、乳癌、卵巣癌、子宮体癌)
- ★ 耐性菌に汚染された豚肉
(米食品医薬品局報告: 69%は抗生物質耐性菌に汚染されている)
(2013年9月米疾病対策センター報告: 米国内で2百万人が
抗生物質耐性菌に感染し、年間2万3千人が死亡している)
⇒感染症に対する治療に支障
- ★ 緩和される残留農薬による健康被害
(除草剤、ネオニコチノイド系農薬、ポストハーベスト農薬)
- ★ GM(遺伝子組み換え)作物
(大豆、トウモロコシ、小麦 など)
コーンスターチ(澱粉)として多くの食品製造の素材
GMトウモロコシは中性脂肪を増加させる

★ 人工甘味料
(アスパルテーム)

「たった1剤で国が減ぶ」 2016年4月6日 配信 毎日新聞社

抗がん剤「オプジーボ」
(一般名ニボルマブ)
「非小細胞肺癌」で保険適応となる

大人(体重60キロ)は1回133万円
2週間おきに点滴を受けると、
1人で年約3460万円
国内で年5万人に使用すると
その薬剤費は年約2兆円



現在、日本の年間薬剤費は約1兆円
オプジーボの適応は今後も広がり、
オプジーボ以外にも高額薬が續々登場する

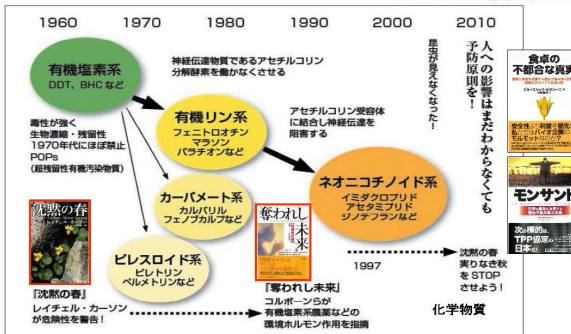
日本の主な抗がん剤の薬価(1カ月あたり)

シクロホスファミド	3378円	
フルオロウラシル	5836円	⇒数千円
シスプラチン	4万7560円	
イリノテカン	4万9176円	
ドセタキセル	9万4160円	⇒数万円
ゲフィチニブ (商品名イレッサ)	20万1360円	
ペバシズマブ	65万5374円	⇒数十万円
クリチニブ	72万1560円	
ニボルマブ (商品名オプジーボ)	321万9796円	⇒数百万円

※平均的な年収の日本1車庫の車庫賃(信託社)調査
: <http://headlines.yahoo.co.jp/hl?=-20160405-00000021-mai-soci-view-000>

[5] ホルモン剤入り牛肉、耐性菌豚肉、ネオニコ農薬、遺伝子組換え作物

危険な農業の変遷 → 遺伝子組換え食品



農薬の毒性の多くは遅発性

- ★ 多くは、「ただちに」症状の急性/亜急性毒性でなく、微量でも何年もたつてから出る遅発性/慢性毒性で、農薬のせいとは気がつきにくく、因果関係も証明しにくい
- ★ 発がん性: 有機塩素系⇒各種のがん
- ★ 脳・神経毒性: ことには有機リン系、ネオニコチノイド系 ⇒ 心機能不全など急性神経症状、パーキンソン病など遅発性神経疾患、発達障害
- ★ 免疫毒性: ほとんどの農薬 ⇒ アレルギーアトピー(花粉症など)、化学物質過敏症
- ★ 生殖毒性: ほとんどの農薬 ⇒ 鳥の卵が孵化しない(トキの例)
- ★ 大人ではうつ病などの精神疾患
- ★ 症状が一見多様で原因が複雑で、研究しにくい科学的に厳密な結論がでない
- ★ 日本では農薬の毒性など国際的な情報が一般に伝わらず、ガラパゴス化している

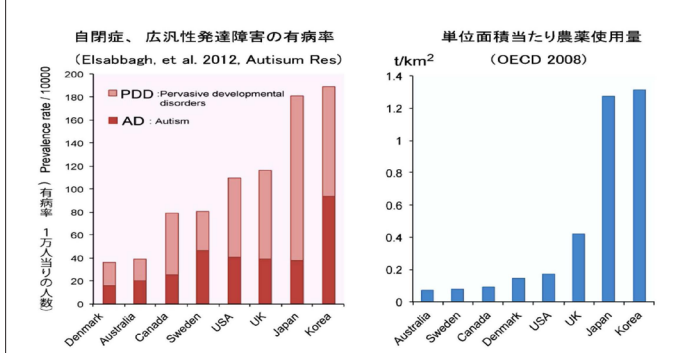
原因が断定しにくく、予防できず増える一方。
不都合な真実には目をつぶる

脳内アセチルコリン(神経伝達物質)系をかく乱して 有機リン、ネオニコチノイドが発達障害を起こす

- ・有機リン農薬: アセチルコリンの分解酵素を阻害
神経情報伝達がONになりっぱなし。OFFがない
- ・ネオニコチノイド: ニコチン受容体にアセチルコリンと同様に結合し、神経情報伝達がOFFなのに誤ってONとする
“にせ神経伝達物質”
- ・脳の発達過程では、OFFの状態がその部分の正常神経回路の発達に必須のことがあり、
低濃度でも有機リン、ネオニコチノイドが異常を起こす

有機リン系・ネオニコチノイド系農薬は神経毒性を示す。

単位面積当たりの農業使用量と自閉症など発達障害の有病率



単位面積当たり農薬使用量と発達障害の相関。韓国と日本がダントツ。

[6] 毒性化学物質と放射線影響の相乗作用で がん・非がんを問わず多様な疾患が発生してゆく

【放射性物質と化学物質の「複合汚染」】

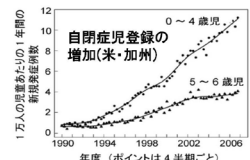
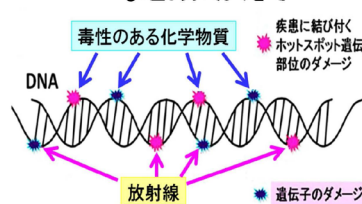
野村大成 (大阪大学名誉教授、放射線基礎医学)の1980~1990年代の研究

- ★ 親が放射線に曝露すると、突然変異のみならず、がんや奇形までもが子孫に誘発され、その生殖細胞の変異は次世代に遺伝する(Nature1990)
- ★ マウスの妊娠中に低線量放射線(X線)をあて、その母から生まれた仔マウスに離乳後、発ガン物質(ウレタン)を低用量与えると、放射線をあてない母親から生まれた子どもに比べ、数倍の頻度でガンが発生
⇒ 低線量の放射線と低用量の毒性化学物質に汚染すると、一方だけではガンが発生しなくても、相乗効果でガンが発生しやすくなる



⇒ 今後は、放射線と各種毒性化学物質汚染との大規模な「多重複合汚染」が問題となる
⇒ 福島県民の健康管理は国の責任で行うべき
⇒ 検診を保険診療とすべきである

まとめにかえて



ヒトの脳もガン細胞と同じく、de novo mutationにより細胞レベルでは異常細胞を含むモザイクになる

- ★ がんを含め全臓器に多様な疾患が確率的に発生する
- ★ がん罹患率も若年化 ★ 非がん慢性疾患・難病・奇病の増加

現代社会の文明を支える科学技術の人体や生態系への影響を科学的に分析し社会全体で「光と影」を使い分ける見識が必要
現状はお金のために嘘と隠蔽で科学の独立性が脅かされている

[7] 健診で早期に発見、適切に治療で、医療費を抑える

癌医療の原則は『適時(早期)発見・適切治療』

- * 症状が出現した時は進行癌であることが多い
- * 検診を保険診療として早期に発見し、適切な治療をすべき
⇒①局所療法で済む ②生存率向上 ③最終的には医療費削減
- * 早期癌ほど治癒しやすく、治療侵襲が少ない
⇒ 外科治療: 縮小手術, 鏡視下手術, 内視鏡的粘膜切除術
⇒ 放射線治療: 定位放射線治療, 小線源治療
⇒ 最終的に、良質なQOLで治療後の合併症が少ない
- * 費用効果分析において低医療費で済む
⇒ I期の治療は**50万円以下**で、90%以上の生存率
⇒ III期では最終的に**1000万円以上**で、半数以上死亡
- * 早期発見の努力により新たな医療技術が開発される

〇がん健診の具体的対応例

部位	健診	検査
胃がん	ピロリ菌検査	バリウム検査より内視鏡 (2~3年に1回)
大腸がん	便潜血	内視鏡 (+加 ^α 内視鏡)
肺がん	痰細胞診	CT (3~4年に1回)
乳がん	視触診	エコー検査 マンモは×
子宮がん	細胞診	予防ワクチン×
肝・胆・膵臓がん	エコー検査	C型&B型肝炎ウイルスキャリア対象
全身		PET・腫瘍マーカー

「小さな上映会DVD貸出リスト」 脱原発とくらし見直し委員会

タイトル	人数	観た場所	観た組合員さんの感想 (お礼の言葉は一部省略しました)
祝の島	2	自宅	恥ずかしい話ですが、私が原発を身近かな問題として感じたのは、福島第一原発事故からです。ズーっとズーっと、何十年の間戦い続けている島の人々に頭が下がります。そう、島の人々も、私たちも、ただ平和な安全な普通の生活がしたいだけなのです、と怒りを持って改めて思いました。
六ヶ所村 ラフロディー	4	自宅	原発は作る(生かす)も地獄、殺すも地獄で、どう転んでも私たちの血税は、維持するためにも、廃炉にするためにも、どんどん使われていく。その上、命の危機におびやかされながら、未来の子孫にまでも…。頑張っている人たちがいるということ！そして福島事故があっても、なお原発を進めようと(動かそうと)する人たちの、許してはならないと思った。止めたい！
放射性廃棄物	2	自宅	ロシアの原発事故など、公になっていない事実について、多くの人に知ってもらいたい。原発業界の隠蔽体質は「隠したい事実」があるから。放射性廃棄物の問題も解決できていない現状、原発の稼働は本当に止めるべき。
赤とんぼが いない秋	4	自宅	殺虫効果の強い農薬を使用した食べ物や米などを、人間が食べて本当に大丈夫なのか？実際に被害にあっている方の声を聞くと、恐ろしく思いました。知らず知らず口にしているのですが、極力避けられるものは避けていきたいとさらに強く感じました。
	2	自宅	理事時代に学んだことを再認識しました。 私なりに環境問題にも配慮しながら生活しているつもりですが、八郷での菜の花サミット開催以後、本部では脱原発に力を入れすぎる事で、石炭運動などは6月に1度だけ呼びかけがあるものの、手抜きがあるように感じています。大きなくくりで言えば、脱原発の大事ではありますがー。
サクリファイズ	1	自宅	すさまじい映像だ。多くの人々に観て貰いたい。
	3	自宅	食べ物の事、種の事を良く知って、選んでいかないと、世界中が大企業に支配されてしまうのを再確認しました。みんなもっと知っちゃおう！と声を大きくしていきたい。
未来の食卓	2	自宅	家族の健康第一に食品を選びたい。

【新着 DVDのお知らせ】

<p>自然と共存する農のかたち</p>	<p>日本有機農業研究会編 (12分)</p>	<p>魚住農園のキャベツに付くアオムシ(チョウの幼虫)に、産み付けられたアオムシサマライコマユバチの卵が、孵化するとアオムシを餌として育つ様子を収めた映像です。「有機農業は、農薬に頼らず、命のつながりに任せて、作物を作らせていただいている」という魚住さんの言葉が心に残ります。</p>
----------------------------	-------------------------	--



←アオムシの体内から出てくるコマユバチ



ネオニコ農薬問題シンポで講演する魚住さん (2010年イーアスつくば)